

## 別紙1 ソフトウェア要件

ソフトウェア要件
・データベース、CSV、XML、などのデータソースを連携し統合可能であること
・スケジュール、ファイル更新、HTTPリクエストなど多様なトリガーで処理を自動実行できること
・処理フローはJavaに自動変換され、高速な実行性能を有すること
・ソフトウェアの機能により、大容量データを自動で並列処理が可能であること
・ソフトウェアの機能により、大容量データを自動で分割処理が可能であること
・ノンプログラミングでアプリケーション間の連携処理を定義・実行できるGUI開発環境を有すること
・Webブラウザから開発が可能であること（開発クライアントツールのインストール不要）
・データ変換（フォーマット変換、文字列処理、条件分岐等）をGUIで定義できること
・処理結果のログを自動出力し、運用監視が可能であること
・スクリプトの仕様書、差分比較を生成する機能を有すること
・スクリプトのバージョン管理機能を有すること
・スクリプトのインポート／エクスポート機能を有すること
・処理フローの条件分岐が可能であること
・エラー発生時にリカバリ処理を定義・実行できること
・処理実行開始時間や終了時間等のログを記録し、業務プロセス改善や監査に活用可能であること
・処理フローの構成要素（接続、変換、条件分岐等）をテンプレート化して再利用できること
・ユーザーごとに権限設定が可能で、複数開発者による並行開発に対応していること
・外部からのAPI実行やコマンド実行が可能であること
・処理フローの休日設定やカレンダ制御が可能であること
・グローバルリソース設定により、接続情報を一元管理できること
・全角半角変換機能を有すること
・和暦変換に対応していること
・リファレンス機能を有し、実装したい処理をサンプルから利用可能であること
・横断検索機能により、関連するキーワードが使われているプロジェクトを可視化できること
・特定のデータベースに対して、複数のJDBCドライバを格納・利用できること
・令和10年（2028年）3月末までのアプリケーション保守を提供すること